

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	きめ細やかなアセスメントを行っているほか、新たな事業を立ち上げ、利用者に寄り添った支援を実践している
	内容	初回面談はサービス管理責任者が行い、利用者のニーズを正確にアセスメントし、「個別支援計画書」を作成している。計画の内容は、全職員が一堂に会する報告会で伝達し、利用者の情報を職員間で共有を図る仕組みが整っている。また、利用者のニーズに合わせて新たな事業を立ち上げる等、利用者に寄り添った支援が行なわれている。職員調査でも、新たな事業で利用者の特性や意向を反映した作業やアクティビティを提供する事が出来ている等の意見があり、「障害を越えて共に生き共に働こう」という法人の理念に沿った支援を実践している。
2	タイトル	事業報告会等を通じた保護者への情報提供により事業所への理解を深め、利用者の意向や希望も把握している
	内容	事業報告会を実施し、事業所の実践内容について、利用者や家族に報告している。保護者会も年2回開催されており、多くの家族の参加が得られている。家族に対し、事業所における利用者の様子や活動内容を伝え、事業所への理解が深まっている。新規の利用者には、契約時に法人の沿革や基本理念等について説明している。個別の要望や希望については、日常のやり取りのほか、モニタリングや個別支援計画の作成時の面談を通じて把握している。毎月開催されているグループミーティングもあり、行事や活動などについて希望を把握し、活動に反映している。
3	タイトル	新入職員にはメンターを付け、OJTで育成する仕組みを整えている
	内容	新入職員にはメンターを付け、共に行動しながらOJTにより業務内容や手順を教えている。そして、「新任職員チェックシート」により、3か月後、6か月後、1年後に到達度(3段階評価)を評価している。評価項目は、基本姿勢、利用者支援作業、事故防止、記録など多岐にわたっている。新入職員の自己評価とメンターの評価とをすり合わせながら振り返りを行うことで、項目ごとの到達度の確認や今後の課題把握や目標設定などを行っている。新入職員はメンターのもと、初歩から学びながら仕事を覚えられ、また質問や相談も随時行うことができていく。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新たな作業に関する情報収集を図りながら、作業の幅を広げていくことに努めてほしい
	内容	事業所では、資源回収作業が大きな売り上げを占めているが、利用者の高齢化や地域ボランティアの減少等で資源回収作業が大きく落ち込んでいる。そのため、安定した作業を確保するため、地域の個人宅にチラシを配布し、草刈りや清掃を受託する等、作業の拡充を図っている。今後も、他事業所の取り組みに関する情報収集を進めたり、地域の関係団体との意見交換をする等、新しい作業の開拓につながる検討を進めていくことが必要と思われる。職員全体で新しいアイデアへの意識を持ちながら、作業の幅を広げていくことに期待したい。
2	タイトル	利用者の日々の記録から特記すべき事柄は「ケース記録」に転記して把握しているがその後どう変わったか分かる継続制のある記録に期待したい
	内容	利用者の日々の状況は「作業記録」に記載され、その内容から特記すべき事柄は「ケース記録」に転記され、職員間で共有している。施設長もその内容を確認し、利用者のその日の状況を把握している。しかし、特記事項に記録があっても、次の日の記録には、それに関連した記録が見られないこともあり、その後の経過を記録する仕組みの整備が必要と思われる。利用者のその日その日の様子は詳しく記録されているが、記録の継続性を意識することで、利用者の様子の変化が可視化できるような改善を検討していくことに期待したい。
3	タイトル	これまでに培ってきた地域におけるネットワークを活かしながら、地域のニーズに沿った取り組みを進展させていくことを注視したい
	内容	事業所は長年にわたり地域で活動してきており、地域における認知度も高く、地域住民からの信頼も厚い。市自立支援協議会に参加する等、関係機関のネットワークにも積極的な関わりをしている。一方、近隣の団地における高齢化の進展等、地域における課題も変化しており、事業所では市の社会福祉協議会等と協力しながら、新たな地域との協力関係作りを模索している。災害時における相互協力等、事業所に期待される役割も大きい。これまでに培ってきた様々なネットワークを活かしながら、地域のニーズに沿った取り組みを進展させていくことに期待したい。